

## 第3学年1組 図画工作科学習指導案

日時 平成28年7月26日(火)13:20~14:05

場所 図工室 指導者 高添 比登美

本授業のキーワード 思考の可視化 場の設定 言葉かけ 組合せ

### 1 題材名 くみくみワールド (造形遊び)

### 2 題材の構想

#### (1) 題材について

本題材は、児童がプラスチック段ボールを細く切った棒を組み合わせたり、つなぎ合わせたりしていく中で、できた形から新たな発想や構想を広げていく造形遊びである。主な材料であるプラスチック段ボールは、段ボールよりも軽く丈夫であるうえ、セロハンテープで簡単に接着しやすい材料である。このプラスチック段ボールを使って、児童は何度もやり直したり、新しい活動に挑戦したりするなど、試行錯誤しながら、自分の思いやイメージを表すだろう。また、いろいろな長さや色のプラスチック段ボールを使って、様々な組合せ方やつなぎ方を試すことは、材料を立体的に組み合わせていく造形の基礎になるであろう。児童が体全体の感覚を使って、材料を組み合わせながら、ふさわしい場所に働きかけていく造形的な創造活動は、環境や周囲の様子を考えながら進める高学年における造形遊びにつながっていくと考える。

#### (2) 児童について

本学級の児童は、低学年で様々な造形遊びを経験している。例えば、色水遊びや泥遊びといった体験的な活動、新聞紙やアルミホイルで場所を包む、覆うといった、場所に直接働きかける活動、様々な形や色の紙を並べる活動などである。3年生になってからは、ローラーで色遊びをしたり紙で教室を飾ったりする造形活動や、新聞紙やアルミホイルで図工室を変える造形遊びを経験している。造形遊びに関して、「友達と一緒にできる」「夢中になって、思い切りできる」と前向きな気持ちで取り組むことができている。また、図画工作の授業を毎回楽しみにしており、低学年からの造形遊びの積み重ねが、造形的な創造活動に対する意欲につながっている。本題材を通して、材料や場所の特徴、周りの様子に合わせて、立体的に組み合わせたり、つなぎ合わせたりすることで、自分の思い付いたことを表す造形的な創造活動ができるようになると考える。

#### (3) 指導について

導入では、児童の造形意欲を高めるために、布をかぶせた大きな透明な箱の中に、いろいろな長さや様々な色のプラスチック段ボールを十分に用意しておく。プラスチック段ボールで、図工室をどのように変えることができるか児童に問い掛ける。また、児童が抱いたイメージを立体的な形で表すことができるように、主な補助材として、児童が扱い慣れているセロハンテープを用意しておく。また、児童が場所から発想しやすく、活動がダイナミックに天井まで広がるように、図工室の天井に網を張っておく。活動時には、造形的な面白さを意識できるように、立体的に材料を組み合わせたり、場所の特徴を生かしたりして組み合わせている児童を積極的に称賛していく。活動が停滞している児童には、プラスチック段ボールの新たな組合せ方やつなぎ合わせ方を一緒に考え、活動させる。終末では、児童の造形的な活動を共有化するために、形や色を生かした組合せや場所の特徴を生かした工夫をタブレット端末で紹介する時間を設ける。最後に、電子黒板で活動前後の図工室全体の様子を提示することで、造形的に変わった図工室を客観視させ、満足感や達成感を高めさせたい。

### 3 題材の目標

材料や場所の特徴を生かし、プラスチック段ボールの組合せ方やつなぎ方を工夫してできた形から、自分の思いや表したいことに合わせて思い付いたことを表すことができるようにする。

#### 4 評価規準

ア【造形への関心・意欲・態度】	イ【発想や構想の能力】	ウ【創造的な技能】	エ【鑑賞の能力】
材料となるプラスチック段ボールや場所の特徴を生かしながら、楽しんで造形的な活動に取り組もうとしている。	材料や場所などの特徴を生かし、自分の思いや表したいことに合わせて、プラスチック段ボールの組合せ方やつなぎ方を思い付いている。	自分の思いや表したいことに合わせて、プラスチック段ボールの組合せ方やつなぎ方を工夫している。	自分や友達の活動のよさや面白さ、表現の工夫などを感じ取っている。

#### 5 本時の指導（1 / 1）

##### (1) 指導目標

材料や場所の特徴を生かし、プラスチック段ボールの組合せ方やつなぎ方を工夫してできた形から、自分の思いや表したいことに合わせて思い付いたことを表すことができるようにする。

##### (2) 評価規準

イ 材料や場所などの特徴を生かし、自分の思いや表したいことに合わせて、プラスチック段ボールの組合せ方やつなぎ方を思い付いている。 【発想や構想の能力】

##### (3) 展開

学習活動と児童の主な反応（{ }）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 本時の活動を見通し、めあてを確認する。（5分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>プラスチック段ボールを組み合わせて、図工室を変身させよう</p> </div> <p>2 活動を行う。（28分）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールよりも丈夫だから、細くても組み合わせると地面に立ちやすいぞ。</li> <li>・ポキッと折れやすいから、角度を変えてつなげてみよう。</li> <li>・いろいろな長さを順に、網から吊るしてみよう。</li> <li>・赤、黄、白…決まりをつくって並べて吊るしてみよう。</li> <li>・風で揺らすと、どうなるかな。</li> <li>・〇〇君のとつなぐと、机の上から、階段ができてきたぞ。</li> <li>・棚と床の道をつなぎ合わせよう。</li> <li>・机の下を使って、自分だけの部屋をつくらう。</li> <li>・いろいろな色のプラスチック段ボールで、組み合わせてできた形がきれいだな。</li> </ul> </div> <p>3 本時の活動をふり返る。（12分）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな長さや色を組み合わせると、ジャングルジムみたいな面白い形ができたよ。</li> <li>・何もなかった図工室が、カラフルなプラスチック段ボールの世界になったよ。</li> <li>・他の材料と組み合わせたり、他の場所でもしてみたいな。</li> <li>・新聞紙やアルミホイルは、包んだり広げたりして図工室を変えたけど、プラスチック段ボールは、組み合わせたり、つなぎ合わせたりしながら縦や横に広がっていったよ。</li> </ul> </div>	<p>1-(1) プラスチック段ボールを組み合わせて、図工室をどのように変えることができるか児童に問い掛ける。</p> <p>1-(2) 児童が場所から発想しやすいように、また、活動がダイナミックに天井まで広がるように、図工室の天井に網を張っておく。</p> <p>2-(1) プラスチック段ボールや場所の特徴を生かして、思いに任せて活動している児童を積極的に称賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆ 材料となるプラスチック段ボールを、組み合わせたりつなぎ合わせたりして、できた形や場所の特徴を生かして活動しているか。</p> <p style="text-align: center;">（活動の様子・対話）【発想や構想の能力】</p> <p>A 材料となるプラスチック段ボールで、組み合わせでできた形を生かし、場所の特徴や自分の思い、イメージに合わせて進んで活動している。</p> <p>B 材料となるプラスチック段ボールを組み合わせたりつなぎ合わせたりして、形を変化させて活動している。</p> <p style="padding-left: 20px;">→ 場所を生かした組合せ方やつなぎ方をしている友達の活動を、一緒に見に行く。</p> <p>C 活動が広がらず、停滞している。</p> <p style="padding-left: 20px;">→ プラスチック段ボールの新たな組合せ方やつなぎ合わせ方を一緒に考え、活動する。</p> </div> <p>3-(1) 造形的な活動を共有化するために、タブレット端末で記録した児童の活動の様子を電子黒板で見せながら、造形的な組合せや場所の特徴を生かした工夫を紹介して、本時の活動をふり返るようにする。</p> <p>3-(2) 児童が造形的に変わった図工室を客観視したり、満足感や達成感を高めたりできるように、電子黒板で活動前後の図工室全体の様子を提示する。</p>